

授業改善等に関する報告書（2021 年前期）

授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

[2021（前期）英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
プレセミナー	村上まどか	かなり高い回答率で、おおむね好評をいただきました。引用のやり方や参考文献の書き方が、今まであいまいだったのが明確になったなら儲けもの、ただし分野によって違いもあるので、卒論の先生の指示も仰いでください。ところで「口調が悪い」とは具体的に何のことか分かりかねるのですが、言葉遣いでしたら気を付けます。
イギリス文学・文化演習 c	土屋結城	オスカー・ワイルドの短編2編を読み、作品の読解並びに19世紀イギリス社会についての理解を深めることを目的とした授業である。「シラバスの内容や到達目標と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」といった項目で4.72~4.83の評価を得た。対面になったり、オンラインになったり、と授業形態が途中で変わったが、概ね、授業の内容や目的に関する理解は得られたと思う。今後の課題としては、オンライン授業での双方向性の確保、学修時間の確保が挙げられる。学修時間に関しては、比較的確保されているようなので、現在の取り組みを続けるとともに、参考文献をより手厚く紹介するなどして改善を図りたい。
Basic Grammar a	村上まどか	おおむね良好な結果ではありますが、おそらく同一人物でしょうけれど、「説明がわかりやすい」「進むスピードが適切」に対して「まったくあてはまらない」と答えた人がいるのが難点でした。でもそれはともかく、SDクラスとはいえ英文学科なので、英語自体にはやる気を出してやってほしい。このクラスはe-learningが、満点か零点の両極端で、零点の人で単位修得できなかった人が何人もいます。提出物は、締め切りまでもにれなく出すという学習習慣を徹底してください。
Intensive Reading a	志渡岡理恵	読解力を高めることを主な目的とした習熟度別の授業である。毎回、担当者がハンドアウトを作成して発表し、受講生全員と教員がコメントするという形式をとった。アンケートの回答率は84.8%(28/33)で、満足度は4.04だった。 テキストの英文はなかなか難しかったと思うが、それを読み解いていく楽しさを感じた受講生は多かったようである。「作品を読み込んで自分でハンドアウトを作る事で、作品の理解度がとても高く資料作成能力も上がったと実感する。他の人の発表の良い点、ハンドアウトの良い点もしくはそれらの改善点を捉えてより良い発表になるよう努力できた」、「自分の力で英文を訳し、人にわかりやすく伝え、物語の良さを感じることができた」、「この授業を通していくつかの物語を読むことが出来たととてもよかった。自分でハンドアウトを作りどの部分が大切なのか考えて読み取る力がついたと思う」、「英語の読解力が身についた。文学作品ならではの修飾の仕方や表現方法を学ぶことができた」などのコメントが寄せられた。
イギリス文学・文化講義 c	土屋結城	物語絵画と呼ばれるジャンルの作品からヴィクトリア時代のイギリスにおける女性像や当時の社会についての理解を深めることを目的とした授業である。授業アンケートでは「シラバスの内容や到達目標と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」といった項目で4.67~4.86の評価を得た。オンデマンド形式での授業で、毎回動画を配信し、小テストで課す課題に取り組んでもらったが、授業形態、内容に関して、一定の理解は得られたように思う。今後の改善点としては、オンライン授業での双方向性の確保が挙げられる。manabaの個別指導を用いたり、学生のコメントを丁寧に紹介したり、参考文献を手厚く紹介するなどして改善に取り組みたい。
時事英語演習	柳田亮吾	この授業は、時事英語にふれることと、個人やペア、グループで調査した内容を発表するプロジェクトに従事することの2点を主眼としていました。皆さんの振り返りを見ると、後者についてはある程度、授業の目的が果たせたかなと思っています。授業ではほぼ毎回スライドを作って、発表をする活動があったので、みなさんの英語の発表力も少しずつよくなっていったように思います。ただ、ご指摘もありましたが、ペアやグループで行うプロジェクト活動については、もう少しペアやグループ内での議論をするよう促す、あるいはそのための時間を設けた方がよかったかなと思っています（とはいえ、感染症対策のために教室でのペア/グループワークは物理的にしにくいという問題もありましたが）。毎回ペアやグループで話し合いをしてはもらいましたが、個人で作業をする時間が結構多くなってしまったので、次回はせっかく授業という形で（対面・オンライン上で）集まっていることをもう少し生かせる授業デザインを考えたいと思います。 また授業のもう一つの主眼である、時事英語については、授業でいくつかの英語のニュースウェブサイトを紹介したものの、もう少しこちらで説明をしたり、補助線を引いたりといったことをしてもよかったかなと思っています。今回の授業では世界のニュース、観光地としての日本、SDGsを取り上げましたが、前者2つについてはもう少し時事に関連する内容を取り上げられるような工夫を考えたいと思います。

【2021（前期）英文学科】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
卒論セミナー a	志渡岡理恵	卒業論文の準備・執筆を行う授業である。毎回、受講生の発表と個人面談を行った。アンケートの回答率が50%（11/22）だったので、今後は実施方法を工夫しようと思う。満足度は4.73と高かった。 受講生の発表に対して受講生全員と教員がコメントしたので、それが卒業論文執筆を進めるうえで役立ったようだ。「発表にたいして他の人からのコメントがもらえるので、参考にすることが出来た」というコメントが寄せられた。また、他の受講生の発表も参考になったようだ。「毎週ゼミ生の発表が聞けるので、自分の卒論を進める際のヒントになったり、参考になりそうな文献や資料を見つけることができた」というコメントが寄せられた。学生同士が刺激し合い、助け合いながら卒業論文を書き進められるように後期も工夫したい。
イギリス文学・文化講義 a	諏訪友亮	全体的に評価は良好でしたが、授業中に時間を設けたにもかかわらず、アンケートの回答率が高くなかったです。後輩たちがより気持ちよく授業を受けられ、授業改善に役立つ、ということを丹念に説明しアンケートを集めたいです。来年度以降の改善点は以下です：①評価の高くなかった映画を外し別の映画を入れる。②イギリス・アイルランド以外の英語圏も学べるようにする。③英語の学習量が多いことをシラバスに記載する。
アメリカ文学・文化講義 a	稲垣伸一	履修者の皆さんが熱心に授業に取り組んでくださっていたと思います。とくに毎回の授業後に提出してもらったコメントペーパーは、回を重ねるごとに書いてくださる分量が多くなり、コメントや質問も鋭いものが多私私もとても参考になりました。 事前以降回るパワーポイント資料の背景を紫ではなく白にしてほしいという要望がありました。プリントアウトしてメモを書き入れることを考えるともっともな要望だと思いますので、来年度から改善させていただきます。ご指摘ありがとうございました。
女性と英語圏文学 a	志渡岡理恵	オンデマンド授業のためか、アンケートの回答率が33.7%（35/104）だった。アンケートの実施方法を工夫する必要があるが、悩ましい。満足度は4.49だった。説明の分かりやすさは4.6で、「先生のパワーポイントでの説明がわかりやすかったです」、「オンデマンドでも十分に理解できた」などのコメントが寄せられたので、安堵した。受講生が100名を超えていたため、毎回ひとりひとりにフィードバックすることは難しく、授業の冒頭でまとめてフィードバックを行った。特に不満は寄せられなかったが、双方向の工夫を考えたい。 毎回課題を課したが、提出率が高く、内容も充実したものが多かった。読むのが楽しかった。「女性作家やその作品が当時の社会とどのように関係していたのかについての理解が深まった」、「英語圏の文学について歴史や背景を見ながら積極的に学ぶことができた」、「様々な女性作家について多くの事を学ぶ事が出来て、もっと色々な人物のことも知りたいと思ったし、自分が興味を持った女性について深く知りたいと思った」、「様々な女性作家の生涯や作品について知ることができ、自分の視野が広がりました」、「授業で扱った作家の中で、すでに知っていた作家はわずかしかなかった。しかし、多くの興味深い作品を知ることが出来た」などのコメントが寄せられた。
卒論セミナー a	島高行	回答してくれた皆さん、どうもありがとう。 後期もみんな頑張ってください。
Paragraph Writing a	島高行	アンケートに答えてくれた皆さん、どうもありがとう。 途中でオンライン授業になったり、なかなか大変でしたが、皆さん、よく頑張ってください。 パラグラフの概念を伝える授業として理解してもらえれば幸いです。
アメリカ文学史 b	佐々木真理	すべてオンデマンドによる授業となりましたが、この形式が授業の内容にあっているとの回答が多く、安心しています。この授業の目的である、アメリカ文学に関する背景や知識の理解が深まったとの回答も多く、嬉しく思っています。毎回の課題の字数については、少なすぎるとのご指摘をいただいたので、来年の検討事項とします。

[2021（前期）英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
Paragraph Writing a	柳田亮吾	<p>この授業では教科書を用いて、パラグラフを書くための基礎を学び、1学期で計4つのパラグラフを書きました。</p> <p>教科書のレベルは、全て英語で書かれているものの、文法項目の説明の部分などはやや簡単だったかと思えます。皆さんの振り返りを見てみても、基礎の復習と感じられた方が多かったようですね。もちろん基礎も大事ですが、文法項目に関してはもう少し補助教材を用意して、基礎だけでなく応用についても触れるべきだったように思います。</p> <p>授業の進度に関しては、皆さんの様子を見つつ進めるよう心がけてはいたものの、もう少しメリハリをつけるなどの工夫が欲しいとの意見も頂きましたので、後期の授業の参考にさせていただきます。</p> <p>課題の量についての言及はありませんでしたが、皆さんの様子を見ている限り、1学期に4つのパラグラフを書くというのは、適当な課題量だったように思います。それぞれの課題で一度書いたものを何度かreviseする機会がありましたので、皆さんの振り返りにもありましたが、ライティング力の向上につながったとも思います。パラグラフのテーマに関しては日常生活を取り上げているものしかなかったので、個人的には、もう少し学術的な、皆さんが今後専門的に勉強される文学・文化・言語などに関係するテーマでもよかったかなと思います。</p> <p>授業は週1回PC演習室を利用することができたため、Wordを使って英語でパラグラフを書く際のイロハについて説明し、皆さんに実際に練習してもらったことができたのは良かったと思います。Google Driveを使ってメモを取ったり、資料に参照したりというのは最初は戸惑ったかもしれませんが、最終的に皆さん十分に活用できていたかと思えます。</p>
プレセミナー	土屋結城	<p>「実践入門セミナー」「英文入門セミナー」を受け、アカデミック・スキルの更なる学習を進め、4年生の「卒論セミナーa、b」につなげることを目的としている授業である。「シラバスの内容や到達目標と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」といった項目で4.50~4.90の評価だった。対面になったりオンラインになったり、と授業形態が何回かわ変わったが、授業内容に関しては一定の評価を得られたと思う。今後の課題としては、オンライン授業における双方向性の確保が挙げられる。フィードバックを丁寧に行うなどして改善したい。</p>
英語史	片見彰夫	<p>初めてのオンデマンドということで、受講しづらい点があったかもしれませんが、私自身の反省材料です。みなさんから音声の途切れをご指摘いただきパソコンを新しくし、マイクも購入しました。その後は音声については改善されました。個人指導コレクション等も通じ、リアクションを頂けたことは私にとっても今後の講義への学びとなりました。</p>
卒論セミナー a	諏訪友亮	<p>引き続き、卒論完成に向け、ゼミ生たちのサポートをしていきたいと思いません。</p>
Introduction to TOEFL	金田迪子	<p>本科目については、初年度の担当となり、授業内容の構成に大変難航し、その結果多くの点について平均評価が4を下回る結果となってしまいました。今年度の評価を受け、次年度以降は大幅な改善を図ります。特に評価が4を下回った「7. 説明はわかりやすかったですか?」「10. 担当教員の声や言葉は、聞き取りやすかったですか?」については、他の講座でも共通の評価を受けており、後期の授業からフィードバックを反映していきたいと考えています。</p>
Basic Grammar a	土屋結城	<p>英語の基礎的な文法事項の定着を目的とした授業であり、授業アンケートでは「シラバスの内容や到達目標と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」といった項目で4.50~4.63の評価を得た。授業の目的、内容に関して一定の理解を得られたと思う。課題としては、オンライン授業での双方向性の確保や各自が問題に取り組む時間の確保が挙げられる。特にオンライン授業においても英語力向上については、本学のmanabaやZoomのチャットを工夫して用いるなどして、学生が英語に触れる時間を増やせるように改善していきたい。</p>
女性と言語文化	村上まどか	<p>三十数名中、10名しか回答が集まりませんでした。どれも好評でした。(いいと思った人しか回答しなかったのかもしれませんが。)10人中10人が、この科目はオンデマンドでいいと答えたのも軽い驚きでした。確かに、テレビ番組のように作れる講義科目は、オンデマンドがいいのかもしれないね。</p>
イギリス文学・文化講読演習 a	諏訪友亮	<p>コロナ禍で4年生向け授業、就職活動真っ只中ということで受講生の皆さんも大変だったかと思いますが、4年生対応に注意したせいか、全体的に評価は良好でした。次回以降は、授業で取り扱いの少なかった、ヒーニーの後期の作品を増やしていこうかなと思います。</p>
英語学講読演習 a	猪熊作巳	<p>回答数が少ないため定量的な評価は困難ですが、抽象的・思索的な内容に対してそれぞれがよく努力してくれたと思います。反転授業やアクティブラーニング等の手法も取り入れましたが、これについてもよく対応してくれたと思います。</p>

[2021（前期）英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
Basic Reading a	柳田亮吾	<p>受講生の英語のレベルが高いReadingのクラスにおいて、授業でどのようなことに取り組めばよいのか、正直手探りの状態で進めてきましたが、この授業を通して皆さんに得るものがあつたのならば大変嬉しく思います。</p> <p>授業では、今後英語で情報を効率よく集める機会が増えるだろうことを考え、教科書に沿って文章の大意を読み取る、速読（skimming, scanning）に重きを置きました。また、レポートや論文を書く際には、英語で収集した情報を端的にまとめて引用することも求められるため、宿題には読んだ文章の大意を要約する課題を出しました。皆さんの振り返りを見ると、速読、要約どちらもよい練習になったという意見があり、今後のReading系の授業でもこうした活動を取り入れていこうかと思っています。</p> <p>使用した教科書は、選定の際に他の先生にも相談したのですが、小テスト、期末テストの結果を見てみると、レベル的にはちょうどよかったかと思えます。どうしてもクラスの平均にあわせることになるので、少し簡単すぎるあるいは難しすぎると思われた方はお許し下さい。教科書の内容も豊富な話題が収録されており、私個人は読んでいて面白かったのですが、授業での様子を見る限りは受講生の皆さんもそれなりに満足して頂けたかなと思います。授業は少しゆっくり目に進めたため、教科書すべてを読むことができなかったのは残念ですが、進度は適当だった感じた方が多かったようですね。</p> <p>この授業では演習室を使ってノートパソコンを使ってメモを取るあるいは宿題を提出するという形を取りました。最初は戸惑う受講生の方も多かったかもしれませんが、最終的には皆さん問題なくノートパソコンを使ってペアワークや課題をこなせていたかと思えます。ただ、机が小さいので教科書を開きながらノートパソコンを使うのが難しかったですね。もう少し広い教室に皆さん自身のノートパソコンを持ってきてもらうという形が理想かもしれません。</p>
Paragraph Writing a	金田迪子	<p>本授業はオンライン授業と対面授業を交えながらの実施となり、オンライン授業の際には、さまざまな受講環境の学生への対応が十分にできなかった部分もあったかと思えます。「10. 担当教員の声や言葉は、聞き取りやすかったですか？」に対する評価が3.71と他項目を下回っている部分について、今後の授業の参考とさせていただきます。</p> <p>おおむねの項目について評価4以上となり、一部の項目については全体平均を上回る評価となりましたが、「15. 総合的に判断してこの授業に満足しましたか？」が全体平均を下回ってしまった点については、今後の授業運営の参考とさせていただければと思います。アンケートへのご協力誠にありがとうございました。</p>
特別講義	柳田亮吾	<p>概ね良い評価を頂いたようで、大変嬉しく思っています。</p> <p>あたりまえ・常識を疑い批判的に考えてみる、また物事を色々な側面から考えてみるようになったという感想もみられ、そのような振り返りして頂いたのなら、この授業の目的が果たせたかなと思います。</p> <p>また、この授業では個人で調べたことをパワーポイントにまとめて、発表、その動画を授業内で共有するという試みをしました。これについては賛否両論で、新たなスキルが身についたという意見もあれば、負担が大きすぎるという意見もありました。私は実践女子大学に赴任するまえに同様のスタイルの授業を他大学で行った経験があり、その時は受講生から不満の声は上がらなかったため、今回の特別講義でも大丈夫かと思ったのですが、みなさんの意見をお聞きして、少し形式を再考した方が良かったかと思っています。具体的には授業を通して2回行った個人プロジェクトを1回にし、少し内容を掘り下げてもらうというような形です。</p> <p>また、個人プロジェクトの準備の進捗具合に合わせて、講義を1回分削ってしまったことは、申し訳なかったです。これは私の計画が甘かったです。授業のスタイルとしては、前半は前回の振り返り、後半は新しい話題という形で進めましたが、少し前半が長い時があったかもしれません。振り返りが良かったという方と、長すぎるという方で意見が割れました。次回は少しバランスを考えたいと思います。</p> <p>最後に、授業内での受講生同士のコミュニケーションについてですが、この授業はオンデマンドなので、可能であればとりいれたいけれども、なかなかそれを実現するのが難しいと思っています。授業内で受講生の感想や意見などを匿名の形で共有することは試みましたが、今後はもう少し相互的なペアワークやグループワークなども可能性を探りたいと思います。</p>
イギリス文学・文化演習 e	志渡岡理恵	<p>1限の演習授業で受講生は大変だったと思うが、出席率もよく、発表の準備も十分になされていて、充実した授業になった。アンケートの回答率は90%で（18/20）、授業の満足度も4.72と高かった。</p> <p>発表の準備に熱心に取り組む受講生が多かったため、教員も受講生もコメントに熱が入った。「これまで経験したどの課題よりもわたしにとって難しく、かなり時間もかかったがそのぶん力になったと思う」、「英文を読み取る力がついたらと感じる」、「一つ一つのことから何かしら読み取る力が鍛えられた」、「自伝を読み、自分で重要箇所を見つけて分析する力が身についた」というコメントからも成長がうかがえる。</p>
特殊演習 c	諏訪友亮	<p>月曜1限という時間帯ながら出席率もよく、全体的に評価も良好で、興味を持って授業に臨んでくれたのを実感できました。次回以降は、図書館に参考図書を十分に用意して開講したいと思います。</p>
プレセミナー	佐々木真理	<p>学期途中で対面からメディア授業に変わり、対面で予定していたプレゼンがZoomでの発表となったりしましたが、皆さんしっかりと準備し授業にのぞんでくださったので、大変教えやすくありがたかったです。この授業の目的である、卒論に向けての論文の書き方について理解が深まったと回答された方が多かったので嬉しく思っています。</p>

【2021（前期）英文学科】授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
英語学概論 a	猪熊作巳	オンデマンド形式で進めましたが、難度の高い内容に対して、繰り返し動画を視聴するなど、前向きに取り組んでくれた学生が多数見られたことを喜ばしく思います。「練習問題をもっと増やしてほしい」という要望については、今後反映させていきたいと思えます。
イギリス文学・文化演習 a	島高行	回答してくれた皆さん、ありがとう。 授業形態が途中から変わり、大変だったと思います。 作品を通して、社会、歴史など様々なことを学べるのが伝わればうれしいです。
卒論セミナー a	村上まどか	たった一人から（7人中）の回答を得ましたが、そのように自らの向上を感じることに手助けができたとは、よかったと思っています。卒論が記念すべき作品になるように、後期もがんばりましょう。
卒論セミナー a	佐々木真理	学期中に対面からメディア授業へ変更になったりと、落ち着かない半年でしたが、皆さん、そんな中でも熱心にそれぞれの課題に取り組んでくださったのでとても嬉しく思っています。後期もがんばっていきましょう！
プレセミナー	志渡岡理恵	来年度の卒業論文の準備が主な目的の授業だったため、受講生が主体的に課題を発見し、関連する資料・情報を収集・分析して、自分の考えを論理的に表現できるようになるよう心掛けた。アンケートの回答率は77.8%（21/27）で、満足度は4.38だった。説明の分かりやすさは4.71、聞き取りやすさは4.81だったので、説明した事項は十分に理解してもらえたのではないかと思います。 プレゼンテーションの機会を多く設けたが、優れたものが多かった。寄せられたコメント（「自分で1つのプレゼン資料を作ることに真剣に取り組む姿勢を改めて学ぶことが出来た」、「プレゼンを何回も行ったため、問題に対する考察力などが身についた」、「課題発見力が鍛えられたかなと思います」、「さまざまな意見から自分の考えを深めることができた」）からも、受講生が成長を実感できたことがうかがえる。論文の書き方が身についたというコメントも複数寄せられた。
プレセミナー	諏訪友亮	全体的に評価はまずまずでしたが、さらに良い評価を目指したいと思えます。次年度以降の改善点は主に2つです。①Miroの使い方を周知徹底する（使い方に慣れない学生ほど、Miroの必要性を感じられなかったため）。②学びの目的、キャリアへの活かし方の補足をより充実させる（実質、キャリアへの意識付けは初回と最終回しかできなかったため）。
英語学演習 a	村上まどか	授業アンケートやってくださいと、言うのがズームで遅かったためか、5名からしか回答いただけませんでした。ひとり1段落でなく、一人ずつ単元全体という割り当ては、私も初めて行いましたが、みなさんよくついてきたと思います。「英語学講読演習」のほうでふさわしい授業スタイルだったかもしれません。
イギリス文学史 a	島高行	回答してくれた皆さん、どうもありがとう。 オンライン授業になれていなくて、ミスがあったことをお詫びします。 記憶に残る作品が一つでもあれば幸いです。
卒論セミナー a	土屋結城	大学での学びの集大成となる卒業論文に向けての授業だが、「シラバスの内容や到達目標と一致していたか」「各回の授業の進むスピードは適切だったか」「説明はわかりやすかったか」「板書やパワーポイント、配布資料はわかりやすかったか」といった項目で4.72~4.89の評価を得た。対面になったり、オンラインになったりと授業形態が途中で変わったこともあったが、概ね授業の目的は達成できたと判断して良いと思う。今後の課題としては、事前事後学修を充実させるために、学生に課している課題の内容や授業での発表内容を再検討することが挙げられる。具体的には、卒論の向けのリサーチを早い段階から進められるように課題や授業の内容の内容を見直したい。
卒論セミナー a	難波雅紀	「卒論セミナーa」では、卒業論文の作成に向けて、①テーマの設定、②題材の選定、③背景的情報の収集に主に取り組んできました。 ①については、「テーマとは何か」という根本的な問題に対する理解がなかなか得られなかったようです。特に、テーマと題材との関係性がいまひとつ分からず、なかなかテーマを設定できない場合もありました。 ②に関しては、ランダムに題材を抽出しても、内容的に見た場合にそれらが関連していかないことが多いので、その中からテーマに即したものを選別していくのに時間がかかりました。でも、その過程が必要不可欠なことは理解できたようです。 ③背景的情報は、テーマを論じていくために必要な情報を選別することで得られるので、①と②に深く関連するものです。情報収集の結果は後期のセミナーの場で個々に確認していく予定です。
		以上

[2021（前期）英文学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
アメリカ文学・文化講読演習 c	佐々木真理	<p>学期途中で対面からメディア授業に変更になったりと落ち着かない半年でしたが、皆さん、課題や発表に熱心に取り組んでくださいました。この授業の目標である、アメリカ社会の女性たちの思想や活動について理解を深め、英語でのプレゼン能力を伸ばすことができたら嬉しく思います。</p>
卒論セミナー a	稲垣伸一	<p>履修者の皆さんはとても真剣にこの授業の内容に取り組んでくださっていたと思います。そのため、前期のこの授業の目標である卒業論文のアウトラインがとても詳しく作成されていた人が目立ちました。後期もこの調子で卒論完成に向けて頑張ってください。期待しています。後期の面談は前期よりも時間をかけて行う予定です。</p>